

Career Improvement

企業情報

御社名 **フルブライト・ジャパン
(日米教育委員会)**

所在地 東京都千代田区

設立 1972年

業種 日米間の教育・文化・学術交流

従業員数 15人

URL www.fulbright.jp



事務局長補佐兼
広報マネージャー
マリーゴールド・S・ホームズ氏

●多様な選択肢があるアメリカ留学

「アメリカ留学の最大の魅力は高等教育システムに多様性と柔軟性があることです。『大学(ユニバーシティ)』のほかにも、地域密着型の『コミュニティー・カレッジ』や教養教育を重視した『リベラルアーツ・カレッジ』など様々な教育機関があり、学びの内容にも多彩な選択肢があります」とホームズ氏は語る。それぞれのメリット・デメリットと自分のニーズを照らし合わせた上で、教育機関を選ぶことができるのだ。また、大学受験時に学部や学科を決めるのが一般的な日本とは異なり、アメリカでは入学後2年間は一般教養を学び、その過程で専攻を決めるのが一般的。一度決めた専攻を変更することも可能だ。語学力の足りない留学生は語学コースで英語力をつけながら学ぶこともでき、正規留学のほか短期の語学留学のための教育機関や制度も充実している。語学力に不安のある人や具体的に学ぶ内容や方向性が決まっていなくても門戸が開かれているのが、アメリカ留学の大きなメリットと言える。

●様々な人や価値観と出会う「世界留学」

「アメリカには移民や留学生も多く、あらゆるものを受け入れる柔軟性や包容力があります。生活するなかで自然に世界中の人と交流できるし、様々な価値観に触れることができます。まさに『アメリカ留学=世界留学』と言えるでしょう」とホームズ氏は言う。さらに、アメリカでは、社会人として長年キャリアを積んだ後40歳50歳になって大学に入り直す人も多い。国籍だけでなく年代も幅広い人々と共に学ぶことの意義は大きいだろう。ただ、国土が広いアメリカでは、州や地域ごとにかなり様子が異なるので留学先を選ぶ際には注意が必要だという。「学びたい内容が決まっている人はそれを優先すべきですが、意外に重要なのが生活環境です。気候や土地柄が自分にあっているか、例えば大都会がいいのか小規模な街に行きたいのかといったことも考えてほしいと思います。環境が合わないことが精神的に負担となり、学業に悪影響を及ぼしかねません。事前に留学カウンセラーに相談したり、留学体験者に聞いてみるなど、情報収集に努めてほしいと思います」とホームズ氏は力説する。

●日本人留学生が減っている背景にあるもの

近年、海外に留学する日本人の数が減少している。アメリカについても1997～1998年の47,073人をピークに減少し、2008～2009年には29,264人とどまった。日本の若者の内向き志向を危惧する声もあるなか、ホームズ氏はこう語



る。「もちろん若者の志向の変化もあるでしょうが、他にも要因があると思います。例えば、日本の18歳人口は減ってきているので、留学者数が減るのは当然ですし、世界的な経済危機の影響もあるでしょう。大学3年生から就職活動を始めなければならないという日本の就職システムも大きく影響しているでしょう。」そのようななか日本の大学と海外の大学との大学間交流や提携は強まる傾向にある。単位互換制度や短期プログラムを拡充する大学も多い。交換留学制度を利用すれば、学費の高いアメリカへの留学も身近なものになるだろう。

●学生時代に海外経験を積むことの意義

ホームズ氏自身は、学生時代には留学経験がないという。自らの反省も込めて、時間的余裕のある学生の間海外留学をすることを強く勧めている。「テレビやインターネットなどを通して見ると、実際に外国を訪れて人や文化に触れるのとは大きく異なります。また、外に出ることで、日本の良いところも悪いところも見えてくるはず。もちろんつらいこともあるでしょうが、それを乗り越えることで人間的に大きく成長しますし、視野が広がることで人生が豊かになると思います」。

フルブライト・ジャパン(日米教育委員会)は、日米間の教育・文化・学術交流を推進するために、1951年日米両国間の協定に基づき発足した国際機関だ。フルブライト奨学金制度や特別教育交流プロジェクトに加えて留学情報サービス(EIS)を運営し、アメリカの大学・大学院への留学に関する情報提供と相談を無料で行っている。なお、EISは情報収集の手段を提供することを主眼としており、留学先の紹介や斡旋、手続きの代行などは行っていない。詳細はウェブサイトにて確認してほしい。

"The test was with a real person rather than a machine, so I felt really comfortable"

IELTS